

大阪錦画日々新聞紙 第 八 号

明治八年二月の頃あつた心算を

地詰小丹波屋和助の娘のいとこやうに今年まで

春風が吹くやうにうしろのちやうど

事だ知らぬども細さ心のとろとろ

思ひ切りあん肥後をうり入水を

あせうまう降家やも未吉が

娘アうととるの親この名

中も似もつて是れ本半

十八の娘と糸とハあて

うううううううううううう

身を投捨けて二人が死骸が永津川の

高助島やうやしを捜しつゝうううううう

命を輕々と捨てる不孝の罪とやもん

大水堂 行舟 徳



十條政三代
白鳥修二

富士受板
おれ九一